

## 2022年度第2回日本学連幹事会議事録

【日程】 2022年9月24日(土) 20:00 ~ 22:00

【場所】 長野県小県郡長和町 ペンションウイング  
オンライン参加も可とし、Zoomを併用した。

【議事録作成者】 鈴木璃土(筑波大学,責任者)、鎌倉京平(筑波大学)、祖父江有祐(筑波大学)

### 【目次】

1.Nextインカレ2024-2025 .....	3
2.地図著作権指定管理業務について.....	7
3.インカレ枠配分についてのスライド確認.....	8
4.部局報告 .....	9

出席者（敬称略）

氏名	役職	学校名
山川 克則	副会長	東京大学卒
木村 佳司	理事	山口大学卒
谷野 文史	理事	筑波大学卒
浴本 悠貴	幹事長	神戸大学
坂巻 朱里	副幹事長	十文字学園女子大学
中野 海斗	会計	神戸大学
松本 萌恵	事務局長	神戸大学
荒木 孝大	事務局員	広島大学
近藤 花保	普及部長	名古屋大学
宮川 葵衣	普及部員	東京理科大学
永山 遼真	事業部長	筑波大学
大石 遥	事業部員	新潟大学
鷺津 加子	渉外部長	東北大学
鈴木 璃土	広報部長	筑波大学
祖父江 有祐	広報部員	筑波大学
鎌倉 京平	広報部員	筑波大学
今井 里奈	技術委員会	椋山女学園大学
衣笠 匠斗	会計監査	東京大学
桑原 唯歩	会計監査	横浜国立大学
安田 壱耀	北東学連幹事長	福島大学
市川 竣介	関東学連幹事長	筑波大学
島田 智也	東海学連幹事長	名古屋大学
柴崎 愛有	北信越学連幹事長	新潟大学
徳力 雅哉	関西学連幹事長	立命館大学
松崎 莉子	中九四学連幹事長	広島大学

(注)議論の本筋と関係のない会話は適宜削除している。

## 1.Nextインカレ2024-2025

谷野：背景としては、インカレスプリントの継続開催が難しい。これはインカレ実行委員会とインカレSPUの見解である。

ロングとのセットが難しい。ロングの開催地の地殻という制約がある。

ただできえインカレが開催できるトレインは少ないが、ロングのトレインと隣接しているものは少ない

毎年耐えているが、うまくいかなくなりつつある。

本来インカレスプリントに耐えないトレインで無理やり開催しているという現状がある。

適していないトレインで開催を踏み切ると柵の追加設置の必要が生じるなど運営不可がより高まってしまう。インカレが継続できなくなってしまうおそれがあり、早急にインカレの開催形態を見直していただきたいという要望が出ている。

3.4年ほど同じ要望は出ているが、今回で対処したい。

トレインの話だけでなく、資材や運営ノウハウも毎回大きく異なるものとなっている。昨年場合は、秋インカレ実行委員会の中にロングとスプリントの実行委員会が入り交じるという複雑な構造になっており、運営者も多く、リソース的に多くを消費してしまっていること、スプリントトレインの候補が少なく、初動が遅れてしまったことが問題点としてある。

代替案として以下を考えた。

### I. 現状維持

現状どおり秋はスプリント種目・ロング種目、春はミドル・リレー種目を開催する。

### II. ICSR/ICMLRの開催方式

秋はスプリント種目・スプリントリレー種目、春はミドル・ロング・リレー種目を開催する。

### III. ICSの全日本スプリント併催

スプリント種目を全日本スプリントに併催し、秋はロング種目、春はミドル・リレー種目を開催する。

#### IV. ICS/ICL/ICMRの開催

スプリント種目とロング種目を別開催とし、春はミドル・リレー種目を開催する。

祖父江：2番の案の春に3種目開催は学生的にも運営側の社会人にとっても負担ではないか。

谷野：学連でこうしたいと言っても運営者は社会人なので、そう簡単には行かない。学連側からの要望を通してもらうためには社会人の運営者の人に対しては学連としての強い思いを伝える、加えてその明確な根拠を示す必要がある。

今回やりたいこととしては、各案に対しての認識合わせと評価を主に行いたい。また他にこういう代替案があるという意見についても聞きたい。

浴本：4つの代替案の中から1つを決めるのではなくメリットデメリットの整理をしたいということか？

谷野：メリデメをまとめる事と、学生のリアルな声を聞きたい。

谷野：この話の一丁目一番地としては、スプリントロングを一緒にすることが厳しいということがある。

衣笠：学生から見てどうかという意見を聞きたいということであるが、運営側の意見などは学生にはわからない。学生視点でいうと「やれるだけやりたい」となってしまおうと思うが、今回の幹事会ではどのように意見をまとめていくのか。

谷野：みなさんからはまず選手の声を知りたいし、また幹事としても意見を聞きたい。今後の日本のオリエンテーリング界にも関わる問題であるため、幹事としても広い視点を持ってほしいし、学生の生の声を聞きたい。

衣笠：運営負荷の具体的な話は学生には難しいので、ひとまずわかる範囲でということか。

浴本：今回メリデメを話すということだったが、ここの意見は今後JOA等にあげていくという認識でいいか。

谷野：はい。次の進め方は悩んでいるが、どちらかというとも学生（幹事会だけでなく一般の学生にも）からパブリックコメントなどで意見を求めたい。今の課題について学生に共有して、それぞれの大学から意見を集約するという形に出来れば良いと考えている。

鎌倉：今この話を進めているのはインカレSPUで、学生に意見を求めているということか。

谷野：正確には「インカレSPUで課題の整理をしたので、決定権のある学連側で話し合っただけで決定してほしい」という流れである。

谷野：代替案の評価として、評価の観点を私の主観でまとめた。運営負荷、渉外難易度、学生のための選手権大会、学連のお金、選手への金銭的負担、身体的負担の項目でまとめた。

詳細は別紙2を参照。

衣笠：2番の案に関して、春に3日間開催をする場合、インカレは選手権者を決定するという機能があると思うが、この時期であると卒業に必要な授業等が入っており出場が厳しくなる可能性があるのではないか。

衣笠：また、スプリント競技の発達について、秋にインカレがスプリントしかなくなってしまうとフォレスト競技へのネガティブな影響（フォレストへの意欲低下、新入生の定着低下）が起これないか。

谷野：秋はインカレスプリントと全日本に向かってもらうことを少し考えていた。今は全日本とインカレが近くて合わせづらい部分はあると思っている。

衣笠：秋インカレの宿泊費が不要となる、とあるが、全日本スプリントの費用が増えるという観点があるのではないか。また、学連のお金に関しても③案について、今より持ち出しが増える事は無いと思うので○になるのではないか。

鈴木：スプリントリレーについては、世界的な潮流通り男子2女子2という形態か。その場合出場できない学校が多くなるのではないか。

谷野：そうである。スプリントリレーを選手権にせず、アフターイベント的なレースとする案もある。男女二人でやりたい理由として、インカレは男子クラスと女子クラスが分かれているので一緒に競い合うクラスがあってもいいと思うのと、世界的なフォーマットに合わせたいため。

衣笠：女子大が参加できないフォーマットが存在するのがおかしいのではないか。トップを目指そうとしても目指せない選手が存在するべきでない。

谷野：世界的にそのようなフォーマットであるという観点がある。

祖父江：世界的なスプリントの流れを汲むのであればノックアウトスプリントもあると思う。スプリント個人、ノックアウトスプリント、スプリントリレー（クラスの関係上エキシビジョンレースという形になるかもしれない）の3種目を2日間で行うことも考えられないか。

谷野：スプリントインカレとしたい理由の一つとして、各地区のスプリントセレを消して一日で予選決勝方式にしてしまえるという点もある。他にも予選を1日目に行い2日目朝に決勝、午後にリレーを行うなど、開催形態については様々考えられるだろう。

浴本：春インカレの参加費という観点があったが、秋インカレの参加費はどうなりそうか。

谷野：1トレイン分の費用が浮くため参加費の削減に充てられるのではないか。

浴本：意見を動画にまとめて共有する。

山川：現実的な問題として、インカレロングの過半数は雪に埋もれて使えないトレインである。春にロングをやるとなるとかなりトレインの選択肢が減る。3案を推している人がいるが、インカレスプリントの発足前に全日本スプリントで学生表彰を行う話もしたけれど当時は学生の反応が芳しくなかった。

結局、インカレとしてどうなのかという意見を受けて、第一回の富士見は出来たがそれ以降SLのトレインが分かれることになり渉外がかなり苦しい物になっていった。今は学生のスプリントに対する意識が変わっているため当時と同じ状況ではないが、何にしても大変である。

## 2.地図版権指定管理業務について

山川：(詳細は資料参照)

2年前のKOLC大会の矢板日新リメイクでやったように、新規地図作成事業のフォーマットに則って学生たちに既存地図のリメイクを行うという事業について。当時は大会開催までの間地図の生データを預けリメイクの作業を行ってもらっていた。2年前に幹事会で話し合っ、試走や版権使用料は0円にする、版権は学連に返す、その後の特権は無しという方向で話が進んだ。

- ・茨城大大会のように、一部指導を入れて地図を作成する
- ・KOLC大会のようにリメイクを行う。
- ・新規地図作成事業のとおり地図作成を行う。

の3つのパターンがある。

KOLCから山苗代を修正して大会を開く申請がきている。適用方法は今まで通りで、幹事会への事後報告か幹事会決議後に進めるかを決めたい。

もう一つの観点として、KOLCも山梨県で新規トレインを開拓しようとしたが渉外で困難があり矢板で準備期間が短いが開催したいという話になっている。

学生にとっても経験を短期で積めるほか、学連にもメリットしかないのではと考えている。またリメイクと言っても修正のみであるのでプロに頼まなくてもできる範囲であり、YMOEとしても嬉しい。三者にとって得のある話だと思うが、これでいいのかどうかをまとめて頂きたい。

浴本：幹事会が承認するか、幹事会が報告を受けるだけにするかということか。幹事会内で特に異議がなければ承認でよいか。

祖父江：KOLCの山苗代リメイクに移ったという話があったが、こういった事が可能であることが他の大学に周知されていないように感じる。関東学連所属の大学クラブに限らず他の学連でも同様に、独自に行おうとしている大学大会で不都合が生じた際にそういった、学連所有地図の修正による大会開催の方法も取れるということは知っておいて損が無いだろう。

鈴木：学生の修正で精度は問題ないのか。

山川：十分な精度が確保できると考えている。プロにお金を払って修正するよりも学生に任せの方が教育的効果も高いと考える。

鈴木：では、よほど問題がない限りは山川さんから報告を受ける方針でいいのではないか。

山川：幹事会がストップする権限はある。

浴本：周知を広報部をお願いしたい。各地区学連に下ろすでもよい。

### 3. インカレ枠配分についてのスライド確認

「2023年度インカレの枠配分に用いられる基準について」

浴本：東北大からの意見書をうけた枠配分の議論の結果、総会で議論を行うとしたためその総会用の資料を今回作成した。今回したいことは話し合うことではなく、資料の内容の抜け漏れを確認していただきたい。

鷺津：⑦についてもし案が集まったらまたの案について話し合うのか。

浴本：意見募集の期間を設けて、その後投票期間とする。

衣笠：④について。個人実績枠について議論すると前回の議事録ではなっていたが議論はされていない。ICMの個人実績枠を採用するという案もあるのでは。

浴本：ICMの結果を用いないのに、実績枠のみICMの結果を用いることに違和感がある。

衣笠：個人実績枠を無かったことにする理由がないと思う。そういう選択肢が考慮されていないと思った。

近藤：実績枠は枠配分とは別のものだから、ICM2021の結果を用いないとしても実績枠で出場できる選手はそのまま使えばいいと思う。

浴本：出席者から意見を募集する。

スライド通りがよい：3

個人実績枠についてはICM2022においてICM2021の結果を用いる：18

「個人実績枠についてはICM2021の結果を参照する」とスライドの内容を変更する。

## 4.部局報告

広報部：インカレ関連のtwitterと、HP更新（普及部の渉外マナー事例集については未更新）、地図周りの制度の広報を進める。

普及部：渉外問題の提出をもらったのでそろそろ更新。

基成さんから持ち込まれた企画について進んでいないので、一度基成さんに確認する必要がある。来月頃からインカレの観戦ガイドと選手名鑑の作成に取り掛かる。

事務局：テレイン利用申請、学連登録対応。全日本大会締め切りに伴う駆け込みの競技者登録の対応。

渉外部：毎月のテレイン渉外をしている。渉外部員を増やしてもらったが活用できていない。ヘルプに出せる。

## 2022年度第2回日本学連幹事会議事録

会計：各地区学連からの学連登録費を回収した。中間報告の準備開始。

北東：特になし。

関東：セレ関連の処理終了。新人戦完了。セレの推薦過程でJWOC、WOC出場の取り扱いについて要検討。

東海：特になし。

関西：世界大会関連の推薦の話が出ているのでその話を進める。

中九四：特になし。

事業部：ユニバーの観戦会の諸々を文書化。後夜祭・講習会について動き出すため谷野さんから引継ぎを行うとともに実行委員会に連絡を行う。第3回幹事会の宿についても取り掛かります。

副幹事長：幹事長補佐業務。JOA事務局で話し合いを行った。

幹事長：臨時幹事会開催。今後やることとしては、枠配分の資料について確定させていく。10月前半で臨時総会を行いその結果を10月後半に公開する。またNextインカレの話を各校に投げる。

技術委員会（代理：山川）：年末に学連合宿を開催予定。山リハと共催。12/24,25くらい。フルスペックで行きたい予定。

以上で第2回幹事会を終了する。